

古くから「懐山のおくない」は注目されていた。



伽藍祭り



順の舞

懐山の

おくない

保存版 06号

懐山に残る新井恒易の足跡

新井恒易 あらいつねやす

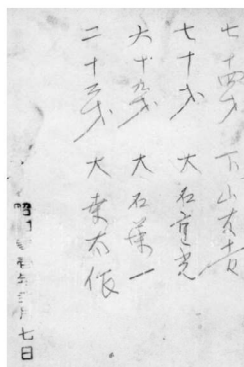
教育評論家

(1912年12月・1999年)は、日本の芸能学者

埼玉県比企郡(現東松山市)生まれ。戦後『日本教育年鑑』の編集・執筆を行い、祭りと芸能の研究などを行う。1982年『農と田遊びの研究』で角川源義賞受賞。

■著書「編集」

- 社会科教育に資する新教育と郷土の科学 西荻書店 1948
- 危機の学生運動歴史とその展望 明治書院 1952
- 日教組運動史 日本出版協同 1953
- 日本の祭と芸能 吉川弘文館 1956
- 愛国心と教育 1958 (三新書)
- 能の研究 古猿楽の翁と能の伝承 新読書社 1966
- 中世芸能の研究 呪師・田楽・猿楽 新読書社 1970
- 続中世芸能の研究 田楽を中心として 新読書社 1974
- 農と田遊びの研究 明治書院 1981
- 日本の祭りと芸能 ぎょうせい 1990
- 恍惚と笑いの芸術へ猿楽へ 新読書社 1993
- 三信遠の修正会と才二(新井恒易)



写真の裏面

4人の名前が残っている
七十四才 下山友吉
七十才 大石重光
六十九才 大石藤一
二十三才 大栗太作
昭和参孝年式月七日
とある。



写真の裏面

新井父易の印もある

新井交易は「遠江のひよんどりとおくない」を世に出した人

新井恒易の足跡

ひよんどりとおくないを世に広く紹介したのは「新井恒易」である。西浦田楽は折口信夫等によって早くから知られるところであったが、ひよんどりとおくないは人知れず静かに行われていた。

新井は不朽の名著「中世の芸能」で次のように記している。



この懐山の芸能の伝承はまったく知れていなかった。私は1942年（昭和17）に引佐郡の川名薬師堂の芸能を見たおりに、同所の禰宜から初めて聞き知り、44年（昭和19年）に神沢探訪のおりに神沢から懐山↓

浜川へと峰越し歩いて下調べをし、45年（昭和20年）の正月に懐山の祭と芸能（を）見学した。それは前日に浜松市が空襲を受けて消失するという状況の中であり、生きていたらまた会いましょうと大石禰宜さんと別れた。その後1964年（昭和39年）の正月、寺野から再び懐山を訪ねて見学することができた。見学にあたっては大石重光禰宜家や国民学校の池端校長に少なからぬお世話になった。

新井恒易が残した写真



新井恒易は幾たびか懐山を訪れ、この地に中世の農業のおこないが残っていることに驚き文献に残し、世間に知られることとなった。

新井交易を始め日本の民俗学者たちも、この懐山のおくないには中世の時代から続けられている田遊び系の芸能が残っていることに注目をしている。山の中の田遊びは稲も含め焼畑農業から収穫できる作物もある。演目の粟や綿以外にも小豆や大豆、芋とりなどであったのではないかと考えられる。

懐山自治会の全戸が保存会に入っていることは今後継承していくにも頼もしいところであるが、この地域全体で国のお宝であるこの祭りを、非常に大切なものと気づいて地域の皆様で協力し残していただきたい。

合併して10年になるがそれ以前、浜松では国の重要無形民俗文化財は無かった。合併により一度にお宝が増えたことになる。浜松にも沢山のお祭りや芸能があるが国指定となると「遠江のひよんどりとおくない」「西浦田楽」だけである。浜松祭の凧や屋台、ラップは文化財とは認められていない。単にイベントとして扱われている。それほどこの「懐山のおくない」は大切な地域のお宝である。